

第百十三話 建前と本音の戦場の性

虚構は崩れたにも拘らず（第七十五話参照）、所謂従軍慰安婦問題を執拗に問題化する国やメディアが存在する。本件に係る百科全書の力作と評される「慰安婦と戦場の性」（秦郁彦著 新潮選書）から何点かを紹介したい。

1 諸外国に見る「戦場の性」（上掲書第5章から摘記）

「売春は世界最古の職業」と同時に軍隊用の慰安婦も同様、古くて新しい問題。

WW1迄：遠征部隊には娘子軍、陣地戦では売春宿が一般的なパターン

ナポレオン軍 「風紀の頹廃と性病は敵軍の砲火の十倍もの犠牲」

この後近代「公娼制度」創設され、欧州大陸諸国へ

第二次大戦期以降 三類型（著者）

① 自由恋愛型

米英は公娼制から私娼制中心、世論特に故国の女性の監視厳しく、軍内からも抵抗→慰安所の設置や公娼の公然たる利用困難→現地人女性を含む私娼の利用黙認

デメリットは性病患者の増大、将軍級の専属運転手等は現地妻的役割のケースも

*日本進駐軍対処：内務省設置のRAA（特殊慰安施設協会）「性の防波堤」を期待

応募者殺到 ピーク時7万とも 1946年1月公娼廃止指令と同時に閉鎖

爾後はいわば自由恋愛型

②慰安所型

日独が代表例 慰安所総数（1942年時点 日本約400ヶ所、独500ヶ所）

日独共に本国では公娼制があり、戦地では監督役を警察から軍に肩代わりするだけであつた。管理運営の仕組みまで両国は似ていた。

③レイプ型（悍ましいが、斯かる国あり）

国や軍の幹部が半公然とレイプによる「復讐」を奨励したのはソ連（ロシア）

公娼制なく慰安所なきは、反って「福利厚生」と理解されていた？

1992年の旧ユーゴの内戦 民族浄化名目の組織的レイプ

バングラ独立戦、カンボジア・ベトナム戦でも似たような話

参考：①ベトナム戦争

仏軍：移動慰安所 米軍：サイゴン中心に売春産業繁栄

韓国：映画「ホワイト・バッジ」（1993）、混血児5000とも3万人とも

②朝鮮戦争 米兵相手の売春婦 4万人とも、ヤンコンジュ（洋公主）

2 日本

(1) 支那戦場と満州

日本軍専用の慰安所 第一次上海事変時の上海

支那事変拡大に伴い各種の慰安施設も拡大

色々なタイプがあつた。①過渡的・一時的な軍直営 ②軍が監督統制し軍人・軍属（特定の部隊専属、都市などで軍が認可）③軍が民間の売春宿などを兵員用に指定する軍利用の慰安所で民間人も利用 ④純然たる民間の売春宿で軍人も利用 ⑤料理屋。カフェー、バーなど売春を兼業した施設

彼女等の待遇等は決して悪い訳ではないが、紙幅上割愛する。

(2) 太平洋島戦域 (1)のシステムを継承するも、戦場特性に応じた変容

需要増大により内地・朝鮮・台湾更には現地女性

* 建前の道徳厳格主義で戦場における性の問題が解決出来る訳ではなく、レイプ型を除き何処の国も現実的な問題として苦勞。長期駐留する軍隊も同様の問題を内蔵。

（第百十三話 了）